

学び続ける学校

別海町立別海中央中学校 校長室便り

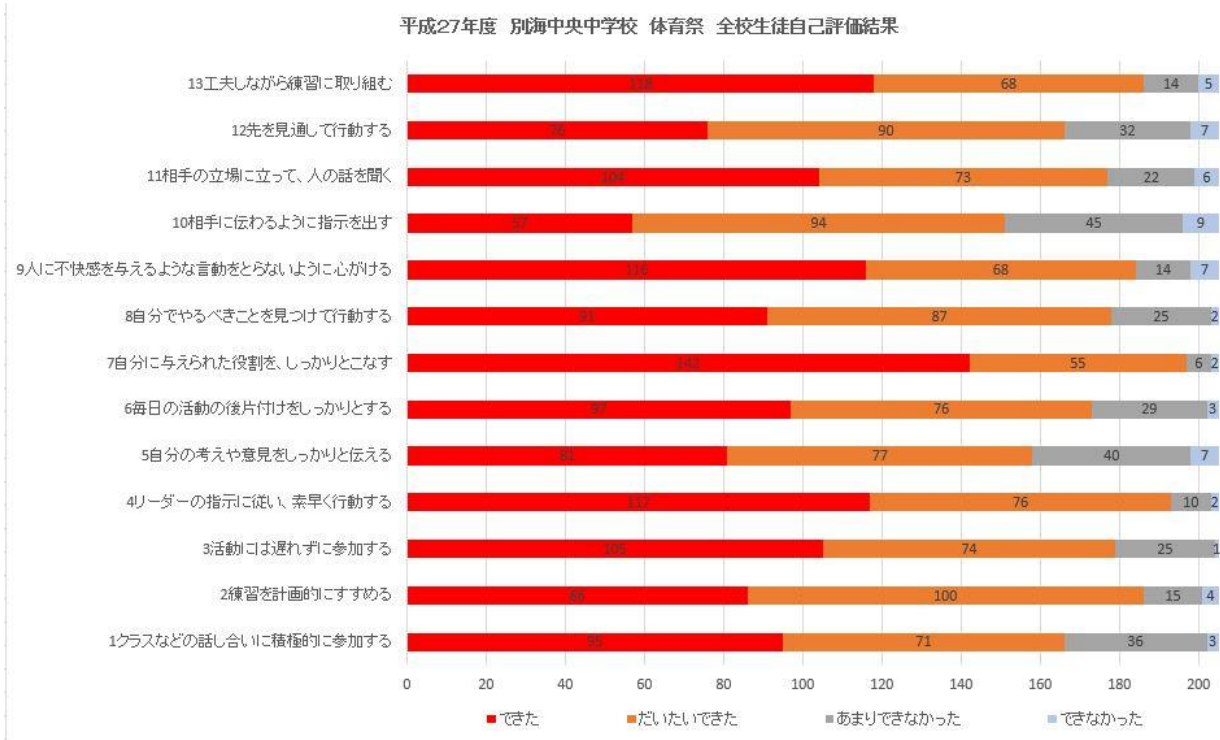
発行 校長 青坂信司

第4号 平成27年6月16日(火)

※今日の言葉「伸びる教師は、教師の仕事の恐ろしさを自覚している」

体育祭を通して見えてきた本校生徒の課題

- ◆今年度の体育祭が終了した。多くの方々から「すばらしかったですね」「生徒たち、とってもよく頑張りました」等とお褒めの言葉をもらっている。とってもうれしいことだ。生徒たちの頑張りを多くの方々に認めてもらうということは大変光栄なことである。元気をもらう。次も頑張ろうという気持ちになる。
- ◆さてそこで、「これでよし」となれば次への進歩、前進もない。幸いにも、担当の職員や教頭先生を中心に体育祭の反省を生徒や保護者、そして教職員に対して実施した。反省であっても、できるだけ「よかった」「よくなかった」という印象的なものに終わらせるのではなく、できるだけ客観的なもの、できるだけ多面的なものとして常々思っているだけに、職員の取組を心強く思った。担当の職員が、全校生徒にアンケートをとってくれた。学年・学級別だったものを全校生徒の分をまとめ、グラフ化してみた。それが以下のグラフである。



- ◆このグラフから見えてくることがある。中央中の生徒の良さと弱点である。一番良かった点は「自分の与えられた役割を、しっかりとこなす」、二番目は「リーダーの指示に従い、素早く行動する」である。この二つを言葉で表すなら「チームワークがよい」「団結力がある」ということである。三番目は二つある。「工夫しながら練習に取り組む」と「練習を計画的に進める」である。問題解決力と自主性が育っていることがわかる。反対に弱点は何か。ワースト1は「相手に伝わるように指示を出す」、ワースト2は「自分の意見や考えをしっかりと伝える」、ワースト3は「先を見通して行動する」と「クラスの話合いに積極的に参加する」である。つまり、コミュニケーション力や言葉による表現力に難があるということである。体育祭の取組を通して見えた本校生徒の弱点をいかに育てていくのか、その改善策を考えていかなければならないだろう。